



ホア ビン (平和)

## HOA BINH レポート

**JVPF** 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)  
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079  
c/o. IFCC.#405, TsujibLD, 333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079  
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp

52号

2022年テト  
(2月1日)

会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議  
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225  
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)188872

## あらためて60年経た枯葉剤被害にこだわり、二度と繰り返させない未来へ

**新**年、明けましておめでとうございます。本年が皆様にとりまして明るい未来へのステップの年になりますよう、お祈り申し上げます。

**昨**年、2021年は世界平和を希求する私たちにとって意義深い年でした。人類史上初めての戦争による核被害者の永年の運動の成果、「核兵器禁止条約」が発効し核兵器廃絶運動の新たなステージに入りました。また、フランス在住の

ベトナム人枯葉剤被害者、チャン・トー・ガーさんがモンサントなど枯葉剤製薬会社を訴えた裁判が全世界で注目を集めました。

おりしも昨年、1962年8月10日にアメリカ軍が初めて化学兵器エーゼントオレンジ(枯葉剤)を、“ベトちゃんドクちゃん”の生誕地、コントウム省に散布して60年にあたる年でした。

**迎**えた今年、1992年に「化学兵器禁止条約」が採択されて30周年にあたります。この条約はウ・タント国連事務総長が1969年9月に行った「化学・細菌兵器とその使用の影響」報告を機に国連軍縮委員会で議論が始まり、約20年の歳月を経た1992年11月30日の「国連第47総会」で採択され、97年4月29日に発効しました。193カ国が批准し今日に至っています。もちろんアメリカも日本もです。

第1条には「いかなる化学兵器の開発、生産、取得、貯蔵・保管、直接的間接的な委譲の禁止」、「使用の禁止」、「使用のための準備活動の禁止」などを定め、既に存在する化学兵器や生産施設の10年以内の廃棄と遺された化学兵器の回収・処分を使用国に義務づけています。

ところが、アメリカは条約本文に枯葉剤の記述がないことをもって、その義務を負おうとしていません。しかし、前



ハザン省の奨学生たち

上写真:コロナ禍の中、テト前に奨学金を届けたいと、1月15日、ハザン省の少数民族出身中学生(未来の人たち)へ奨学金贈呈が実施された。詳細は会報次号で。

文には「戦争の方法としての除草剤の使用の禁止が関連する協定及び国際法の原則において定められていることを認識し、化学の分野における成果は人類の利益のためにのみ使用されるべきである」と、明確に枯葉剤を化学兵器と規定しています。

**60**年経た今日なお、深刻な枯葉剤被害が続いていることは紛れもない事実です。1961年～1971年までの10年にわたる「枯葉作戦」は、化学兵器が史上類を見ない長期間かつ大量に使用された唯一の実例です。

「化学兵器禁止条約」採択30周年の今年、あらためて枯葉剤被害にこだわり、被害者に対する謝罪と補償、そして二度と繰り返させない未来への保障を実現させるための取り組みを強めたいと思っています。

JVPF 副会長 赤木 達男

## 【本号の内容】

- ・動き始めたベトナムの若者たち(宮崎)／2p
- ・「コロナ禍」2年、痛手を好機に(広島)／3p
- ・活動便り:KVPPF(香川)、JVPF 岩手、ふえみんベトナムプロジェクト／4～5p、
- ・活動短信:鹿児島 JVPF、さいたま JVPF／5p
- ・コロナ禍の留学生から便り／6～8P
- ・寄稿:蘇る枯葉剤爆弾の“恨”／8p

## 活動便り

動き始めたベトナムの若者たち  
～じわりと広がる関心～

宮崎 JVPF 川畑 匡

## 宮崎県ベトナム人協会の発足

昨年10月16日の日曜日の夜。場所は宮崎市中央公民館の大研修室(定員130人)。19時～21時の予定で、宮崎県ベトナム人協会(以下、協会)の発足式が開かれた。コロナ対策上、参加者は、来賓も含め50人位(ベトナム側35人位)を予定した。私は、昨年4月11日に設立された宮崎県日本・ベトナム友好協会(以下、MJVA)を代表して、来賓の最後に挨拶した。50人ははるかに超していると見えた(「参加者は来賓も含め80人位。内、ベトナム人は100%若者で、50人超。日本人も10人以上」と後で知った。)。 「今日は日曜日ですが、仕事だった人は手を上げてください」と私は最初に言った。三分の一ぐらいの若者が手を上げた。「お腹がすいていませんか」と続いて言った。「はい、すいています!」と女性たちの笑いが響いた。今日の発足式は、成功すると確信した。



来賓の、総領事ご夫妻、宮崎県、宮崎県市長会、宮崎県国際交流協会、宮崎市国際交流協会(宮崎大学学長)から丁寧な励ましの言葉があった。最後の記念写真撮影まで、全員参加された。昨年の5月23日に披露すると頑張って練習していた舞踊と歌担当の女性軍は、コロナで延期になりがっかりしていたが、この夜実現し喝采を浴びた。

県内の主要報道機関は全社早くから陣取っていた。こんなに関心が高いとは思わなかった。地元のTV局は、YouTubeで、最初から最後まで放映した。

発足会は若者達の熱意で成功裏に終わり、ベトナム人によるベトナム人で構成する任意団体としての宮崎県ベトナム人協会が正式に誕生した。当日、ベトナム政府は、これまでの活動を評価し、政府公認の支援団体に認定した。JVPF 宮崎、宮崎県日本・ベトナム友好協会、宮崎県ベトナム人協会と陣立てはできた。宮崎県で働くベトナムの若者たちが、例えば賃金は低くても、安心して、元気で、楽しく生活できるように三者が連携を密にし、ベトナムと宮崎県の直接の良き関係の強化にも努めたい。

## 共にテトを祝う会を

この後、これまでにない動きが出て来た。宮崎日日新聞社が、第57回宮崎日日新聞賞の国際交流部門で協会を表彰した。次いで、「ベトナムに帰ったが、一緒に働いていた技能実習生(女性)の誕生日にお祝いをしたい。送金方法を教えてくれ」、「2ヶ月間、ハノイ近くで日本語を教えた。懐かしい。宮崎でベトナム人の集いがあれば参加したい」、「○○○○○クラブとして貴協会を表

彰したい」、「ホーチミン市に事務所がある(本社は宮崎市)(建設関係)。協会のことをお聞きしたい」、「技能実習生3人が他県に行ってしまった。誰かいないか」等々、マスコミ取材も含め、理事長のGiangさんの店は大忙し。県庁からこちらに電話があり、彼女につないだが、先月23日(木)には、県の担当課主催の市町村担当課長会議に呼ばれ、彼女は、協会結成に至る経過、活動方針、市町村へのお願い等をスライドで発表する機会まで与えられた。これに比し、JVPF 宮崎、MJVA は静かなもの。しかし、現実には、その都度こちらにも作業がほぼ回ってくる。

今日もまた、彼女から電話。「ベトナム料理教室に日本人の申し込みが3人のみ。何とかしてほしい」。孫のためなら、ではないが、鈍くなった頭と体をやっとこ動かす毎日が続く。MJVAは、2月6日に総領事、知事、県議会議長、経済団体、農林漁業団体、労働団体等に参加をお願いし、ベトナムの若い人たち約40人と共にテトを祝う会を予定している。あれこれ、新年も、ベトナム、で追われそうだ。

(記:2022/1/1)



写真上:外国人住民による日本語スピーチコンテスト(主催:宮崎県国際交流協会)にベトナム人女性3人が挑戦。技能実習生のLam Thi Thu Hoai(ラム ティ トウ ホアイ)さんが最優秀賞に輝く!(2021年12月5日 前列 右から3人目)

写真下:異国の地で自然災害の犠牲になった仲間2人を今年も用う。JVPF 宮崎、MJVA が全面的に支援(2021年11月7日 新聞報道より) 会報「ホアピン」50号(2021年1月)で概報。



## 活動便り

## 「コロナ禍」2年、痛手を好機に

HVPF(広島) 赤木 達男

## 致命的な事業中止による諸関係の途絶

「コロナ禍」の2年、私たち国際交流団体にとって生命線ともいえる対面交流事業が著しく制約され本当にキツイ2年でした。2009年に始めた「テトを祝う会」は内容・参加人数とも発展し、留学生や技能実習生が楽しみにするイベントになってきました。ベトナムへの関心の高まりと技能実習生を受け入れている管理団体や事業所の福利厚生事業としての活用など、日本人市民の間でも定着してきました。

しかし、昨年・今年と2年連続中止です。特に2020年は、300名近くの参加者を集約し、ベトナム料理の食材や資機材の購入や借用、プログラムなどの印刷までほぼ終えた開催日直前(4日前)の中止で、財政的にも大きな痛手でした。

財政的な痛手だけに留まりません。約半年前から会員だけでなく市民団体や学生・市民ボランティア、技能実習生や留学生を交えた企画準備委員会を重ね、技能実習生受入事業所やベトナム人コミュニティへの文書送付と訪問、FMラジオ生出演による呼びかけや市広報、地元紙での案内。受付や会場飾り付けからイベントブースの設置、司会・進行やブースの運営……と、企画から準備、当日の運営、成果や課題を共有する総括会議まで多くの人に関わっていただき、新たな人との出会いや企業・事業所とのつながりが築かれてきました。

このサイクルが途絶してしまったことの損失は計り知れません。

## 分散開催「2022「テトを祝う会」

**2022 "Chúc Tết" in あきつ**  
 ~ベトナムの旧正月(テト)を共に祝い、交流を深める集い~  
 日時 2022年2月6日  
 文化広場 9:30~12:00  
 テトの集い 13:00~15:30  
 会場 安芸津生涯学習センター  
 参加費 日本人:500円 ベトナム人:200円  
 「ベトナム料理体験」参加費は別途  
 第1期 日本とベトナム文化体験交流 9:30~12:00  
 ○ベトナム料理体験 日本人20名 ベトナム人5名  
 ○日本とベトナムの正月行事 日本人10名 ベトナム人20名  
 (餅つき、和製餅、伝統楽器の演奏、ハルゲンアート、ゲーム)  
 第2期 「Chúc Tết」2022 13:00~15:30  
 日本人30名 ベトナム人25名(申込先着順)  
 1. オープニングに集まる「テトを祝う会」  
 2. ふるまふベトナム屋敷(自己紹介)、パフォーマンス  
 3. わが暮らしを(安芸津事務所紹介)、パフォーマンス  
 4. ゲーム「輪っか当て」の対決お楽しみ  
 5. エンディング(ベトナム代表あいさつ)  
 展示ブース  
 ○ベトナム紹介 ○広島ベトナム平和友好協会の活動紹介  
 ○ベトナム文化広場紹介 ○ベトナムの子供たちの生活の様子紹介  
 【主催】 広島県教育委員会 生涯学習課  
 【企画運営】 一般社団法人 広島ベトナム平和友好協会(広島県HVPF)  
 【問合せ】 (084)423-7235 (安芸津生涯学習センター) (084)423-7235 (広島ベトナム平和友好協会)

東広島市には11月末時点、1,434人のベトナム籍市民が、市内9町のすべてで暮らしています。ちなみに同時点の外国籍市民数は95カ国・地域、7,017人です。3年連続中止は致命的と、「2022「テトを祝う会 in ○○○~ベトナムの旧正月(テト)を共に祝い、交流を深める集い~」を準備しています。

①1カ所・大規模開催のリスクを分散する。②

地域でのベトナム交流の場づくり。③「ベトナムがくしみん講座」「ベトナム教室」などの各地域開催につなぐ。④会員拡大とHVPFサポート会議(会員ではないが様々なイベントを支えていただくボランティア)の拡大につなぐ。⑤テトの日にこだわらず2月中に、技能実習生が参加しやすい日曜日に開催。

この5点に基づき各地域の生涯学習センターやHVPFのイベント参加経験のある地域の方、管理組合や技能実習生受入事業所などに相談しながら、住民瀬戸内を臨む安芸津町、農業や中小企業で働く技能実習生の多い黒瀬町、マツダ関連企業や鉄工所、物流分野など市内で2番目にベトナム人の多い八本松町を3開催地としました。

分散開催のため打合せや調整などに時間を要しますが、住民自治組織や様々な同好会、大学や高校、小中学校などと関係ができます。大学生や私立高校生も企画・運営に関わってくれています。各地域の生涯学習センターの参画から東広島市教育委員会生涯学習課が主催し、HVPFが共催者として企画・運営するという新たな開催方式で、2月6日、2月20日、2月27日開催に向けて、年末を忙しく走り回っています。

## 「オンライン授与式」から新たな交流ツール

クアンチ省少数民族寄宿高等学校への奨学支援活動、昨年に続き「オンライン授与式」でした。今年は授与式後、省・学校関係者と東広島市国際化推進担当、広島国際大学などを交えたWeb会議を行い、HVPFやサポーターと奨学生・学校間の情報と交流促進のためにFacebookのグループ開設や学校・クアンチ省とのWeb会議、Webによる交流イベント開催など有意義なオンライン授与式でした。

2023年には「HVPF設立15周年」を迎えます。「日越外交関係樹立50周年」でもあります。プレ年である今年(2022年)、二つの記念事業に向けた取り組みに着手します。

一般社団法人 広島ベトナム平和友好協会(HVPF)  
 専務理事 赤木達男(記:2021/12/21)

## HVPF 会員用連絡 NO26(2021/9/30)より 要約

## ヒロシマで初めての「エージェントオレンジ Day」

ベトナムで初めて枯葉剤がまかれて60年目に当たる8月10日、ヒロシマで初めての「エージェントオレンジ Day」のイベント、「枯葉剤60年 ~改めて問う! エージェントオレンジ~」を東広島市で開催しました。市内だけでなく広島市や竹原市、呉市などから来場45名、Web 申込者32名に参加いただきました。

枯葉剤ドキュメント映画「花はどこへいった」(坂田雅子監督)上映、グエン・ドクさんと坂田雅子監督のトーク&シンポジウム、枯葉剤被害児救援活動のパネル展など。

## 平和親善大使としてのドクさんの「覚悟」



写真左上がリモート参加のドクさん

「2017年から2年間に(亡くなったベトナム人と分かち合っていた)腎臓の手術など6回手術した。今もドクターからは“身体は良好な状態ではない”と言われている。私に時間は多くない。」「戦争が終わって40数年経ち、多くの若者にとって戦争が実感できなくなっている。

それはとても心配で深刻なことだと思っている。若い人たちに枯葉剤や戦争、平和の大切なことを伝えることが平和親善大使である私の任務。」

**活動便り****月1回の定例事務局会議を開催**

KVPF(香川)

2021年度における香川ベトナム平和友好連絡会議(KVPF)の活動は、コロナ禍のもと、ベトナムアンサンブルコンサートを含み予定していた行事等が開催中止となり、活動全般としては特筆できるものがなかったのが現状である。

そのような中ではあったが、可能な限り月1回の定例事務局会議を開催し、情報交換の中から、今後の活動に向けた方針等を確認してきた。

今年度から、池下幹事(穴吹学園)が事務局会議に参加することとなり、ベトナム留学生の厳しい生活実態の報告を受け、現状を共有しつつ、KVPFとしてできる支援策等を検討・協議してきたが、実現はできていない。

今後の活動としては、香川に在住するベトナム人(留学生を含む)との交流を通して、新たなコミュニティーを創設することで、支援体制の構築に繋がるよう、取り組みを検討していくことを確認している。

当面、2022年度総会等の開催に向けて、日程調整を含め協議中であるが、総会の開催に合わせた形で、香川県、高松市、さぬき市など行政を交えた形で、ベトナム留学生等の支援を考えるセミナーの開催も視野に入れて協議を進めている。

また、2019年12月に駐日ベトナム大使館のラム・ティン・フォン公使参事官及びグエン・スアン・ディエン投資参事官を招き開催した「日越交流セミナーin香川」が成功裏に終わったことを受け、ベトナム大使が来県を希望しているとの情報もあることから、KVPFが主体的に関わりながら新たなセミナーの開催の実現に向け努力していくこととしている。

(KVPF事務局長 井出 哲夫)

**活動便り****今できることを一歩ずつ**

JVPF 岩手

日頃より、全国の仲間の皆さんより東日本大震災発災以降、復興に向けた様々なご支援をいただいていますことに、改めて御礼と感謝を申し上げます。

2019年10月、JVPF岩手を立ち上げて以降2年が経過しましたが、コロナ禍において十分な活動ができませんでした。しかし、わずかながら会員の拡大と、第6期のサポーター登録など少しずつ取り組みを進めてきています。

心配されるのは、コロナ禍における外国人の皆さんの置かれている状況です。

野中靖志副会長(盛岡市議会議員)の調査において、岩手県における外国人の就労実態については添付表のとおりで、過日の盛岡市議会でも以下の内容で質しました。

**外国人労働者の就労実態の正しい把握を求める**

一 岩手労働局の統計によると、本県で働く外国人労働者は、昨年10月現在で5,407人であり、下表のとおり年々増加する

傾向にあります。

本県で働く外国人労働者の国籍を見ると、ベトナム、中国と東南アジアからの出身者が8割を占めています。特に、ここ数年は、ベトナムの出身者が大きく伸びています。

このうち、盛岡公共職業安定所管内には、全体の3分の1に当たる1,931人(35.7%)が就労しているとのこと。

外国人労働者の農業分野での就労状況の把握について盛岡市当局は、「一昨年(2019年)の数字になるが、当市では養鶏業を営む法人2社において、合計48人の外国人労働者が従事している。全員が技能実習生、ベトナム国籍である。」と答弁。

また、「新型コロナの影響により、外国人労働者の人材確保が厳しさを増していると聞いているが、市の実態はどうか？」と質しましたことに対し、市当局から、「現在、外国人労働者を雇用している2社のうち1社において、昨年度に受け入れる予定の4人の技能実習生が、新型コロナの影響で入国が延期となっていた。昨年9月2日ようやく入国となり、10月から就労している。また、もう1社では、入国の目途が立てば、今後50人以上に増やす予定だ」と答弁がありました。

私(野中)から「外国人技能実習生には、日本の労働関係法令が適用されるが、長時間労働や賃金不払いなどの問題が発生していると聞いている。市として、外国人労働者の実態把握と、関係機関との連携により、労働条件の確保や相談支援体制にしっかりと取り組むべきだ」と質しました。

これに対し盛岡市当局から、「外国人労働者の雇用の実態について把握が足りなかった。今後は、岩手労働局などと連携し、実態の把握に努める」と回答がありました。

盛岡市においても、ベトナム国籍の方々をはじめ、多くの外国人労働者が就労しています。就労実態の把握と、個別の労働相談の実施など、きめ細かな対策を重層的に講じる必要があり、今後も、交流がますます拡大することが予想されますが、受け入れる事業者や関係行政機関がしっかりと連携していく必要がある一方で、民間レベルでの交流がより重要となってきます。一

コロナ禍の収束のめどが見通せない中、この間の取り組みが中断せざるを得ない状況に危ぐを抱きますが、今できることを一歩ずつということで、岩手も微力ながら今後も皆さんとともにこの運動の輪を広げていきたいと考えています。

(JVPF岩手事務局長 金澤 康)

国籍	人数	前年比	伸び率
ベトナム	1,944人	+258人	+15.3%
中国	1,217人	△79人	△6.1%
フィリピン	937人	△9人	△1.0%
インドネシア	217人	△15人	△6.5%
上記合計	4,315人	155人	+3.7%

【岩手労働局:外国人雇用の届出状況(2020.10.1現在)】

**【告知】**

**JVPF 第15回通常総会は2022年5月21日(土) 13:30~16:30で予定。於:東京(会場未定) 詳細ご案内は3月末予定。**

## 活動便り

## 支援してきた子どもは110人に

## ふえみんベトナムプロジェクト

ふえみんベトナムプロジェクトの25年が本になりました

バインミー、ベトナムコーヒーとチャー、ささやかなメニューだったが、私たちにとって感無量だった。2021年12月12日、コロナ禍により中断していた「ベトナム希望レストラン」を2年ぶりに開くことができた。ふえみんベトナムプロジェクトは、ベトナム・ダナンの児童養護施設「希望の村」を支援して25年、この度、記念誌「ひろがるベトナム希望レストラン—循環する支援」を発行した。

「希望の村」は生活困難や聴覚障がいを持つ子どもたち、6歳から18歳の約120人が生活する施設である。1996年、「希望の村」を創設したレ・リ・ヘイスリップさんの呼びかけに応じて支援が始まった。里親という形で、子どもと手紙のやり取りを行い、現地訪問ツアーで子どもたちに会う。また、毎年、子どもの成長に関する報告がきて、一人の親が一人の子どもの成長を見守ることができる。

25年の支援には3つの「ふしめ」があった。1つ目は、直接「希望の村」を支援するようになったこと。2つ目は2006年からの自立支援の開始。現地に駐在員を置き、大学、専門学校、職業訓練などを支援することにした。その数110人になり、多くが教師、会社員、IT技術者、自営業などとして自立している。日本語を学び、2009年以来、留学、結婚で来日した子も13人になった。

3つ目は、2016年大口の支援団体が支援をやめ、「希望の村」の財政危機を心配した日本にいる卒業生たちが「ベトナム希望レストラン」を始めたことである。支援されたものが支援する側に回る新しい力の始まりだった。勉強や仕事をしながら月1回のレスト



写真上: 久しぶりに再開した希望レストラン

写真下: 希望レストランでダナンの希望の村とリモート交流(2021/12/12)



ラン運営は大変だったが、里親・里子が交流できる素晴らしい場になった。そして地域の人や里親の友達、子どもたちの友達と、支援の輪がひろがっていった。

この本はそうした子どもたちの成長と、それを取り巻く交流を描く25年の物語です。チラシを同封しましたので、多くの皆様にお読みいただけることを願っております。

(ふえみんベトナムプロジェクトは、「一般社団法人希望の村ふえみん基金」になりました)(記: 渡辺美里 2021/12/20)

## 活動短信

## ラムドンで、リモートで奨学金支援贈呈式

## 鹿児島 JVPF



鹿児島 JVPF がラムドン省の少数民族寄宿高校で実施している奨学金支援贈呈式がテト前の2022年1月11日に実施された。当日は JVPF ホーチミン市事務所のルオン所長が JVPF を代表して奨学金を持参。鹿児島 JVPF の皆さんや JVPF 本部(東京)はリモートでの参加。

写真上: 鹿児島から GRAT へ、挨拶を送る鹿児島 JVPF の皆さん。  
写真下: 贈呈式の模様をリモートで



## 活動短信

## クアンナムで、「仁愛の家」寄贈 50 軒へ

## さいたま JVPF

埼玉 JVPF の事業で、クアンナム省の枯葉剤爆弾被災家庭 10 軒に『仁愛の家』が2021年8月寄贈された。支援額 3,050,000 円。このクアンナム省での「仁愛の家」寄贈は今回で都合 50 軒となっている。今回は生活自立支援として飼育牛 7 頭も寄贈された。



写真: 「仁愛の家」寄贈 47 件目の模様。生活支援の飼育牛も寄附された。



## コロナ禍の 留学生から 便り

2年にわたるコロナ禍は、留学生や実習生たちに、異国での滞在ということもあり日本人以上に経済的・精神的に大きな影響を与えました。  
レ・タン・トゥ・ヴィさんとレ・タン・トゥ・ヴァンさんは姉妹で日本滞在歴6年の留学生で、今年度大学卒業予定です。  
ヴァン・クアン・ハイビンさんは家庭がありながら日本語習得のため来日し、日本語学校終了後もコロナ禍で帰国ができない状態です。

## 新型コロナウイルス感染症下の留学生生活

報告・レ・タン・トゥ・ヴィ 東洋大学 経営学部 マーケティング学科  
4年生

・レ・タン・トゥ・ヴァン 東洋大学 経営学部 経営学科 4年生

### 新型コロナウイルス感染症による留学生生活への影響



#### 勉強への影響

- ・非対面授業のため、レポート等の課題が多く、質問等双方向のやりとりの機会が少なく、対面授業より理解しにくいです。
- ・図書館やデータベースの利用には制限があります。
- ・受講したい科目がコロナ禍で中止。
- ・学祭、交流会などもキャンセル、人数制限、

オンラインのみ。

#### 就職活動への影響

- ・2020年に参加予定のインターンシップがほとんど中止になりました。
- ・学校に来られないため、学校からの就職に関する情報や就活支援講座がなかなか手に入り難いです。
- ・会社説明会やインターンシップセミナーはオンラインしか行えないので時間が被ったり、制限時間で質問があっても、聞けなかったことがあります。
- ・現在応募済み会社が30社以上に対して、5、6社しか返信してきません。
- ・コロナの影響で募集人数が若干名であり、経験がある方や転職の方が優先される会社が多いです。

#### 生活・経済への影響

- ・家族の事情があっても帰国出来ませんでした。
- ・ベトナムは日本のように医療先進国とは言えないので、自国にいる家族皆のことをすごく心配しています。
- ・家族から仕送りを頂いていますが、コロナ影響で家族の経済状況に余裕がありません。
- ・今年と去年の緊急事態発令により、バイト先が休業や時短営業になり、収入が減ってしまいました。
- ・バイトに入っても、顧客などの接触の機会が多いのでいつか知らずに感染されてしまうかと心配しました。
- ・学校の施設等を利用することがなくても、施設費が学費に入っ

ていました。(20万前後)

- ・条件を満たしても、学生支援緊急給付金を貰えませんでした。(理由:人数制限)

### コロナ前と比較する生活費変化

	2019年	2020年 ~2021年
家賃(1ヶ月)(アパート)	78,000円	78,000円
電気代+水道代+ガス代 (1ヶ月)	7,000円 ~9,000円	
学費(一年間) (GPA3.0以上を満たす方に 30%授業料減免を引いた金額)	720,000円	720,000円
飲食代(1ヶ月)	30,000円	35,000円
電話代(1ヶ月)	2,000円 ~4,000円	2,000円 ~4,000円
インターネット代(1ヶ月)	4200円	4200円

※収入が減少しているのに対して支出額が変わらなく又上がっているところがあります。

### 新型コロナウイルス感染症の影響下にあつての感想

- 東洋大学経営学部経営マーケティングに在籍している(4年生)レ・タン・トゥ・ヴィです。

新型コロナウイルス感染症が2019年12月から現在まで全世界で猛威を振るっています。そのため、もともと計画していた就職活動や過ごしたかった大学生活も全て中止になってしまいました。これまでにベトナムにおいても、日本においても、無数の悲惨な感染の例が見られ、全人類の敵といえる新型コロナウイルス感染症が全世界に広がってしまい、誰もが大きなリスクに晒されてしまうことを実感しています。感染拡大で生活や将来に苦悩する方が多いと思いますが、私は日本での就職活動で不安を抱えています。大学受験と違って、偏差値などの自分の目安がないので上手くいくのか不安です。オンライン授業なので大学に行く機会がありません。就職支援センターでの相談もすることが出来ません。今までの先輩たちと違って、OBOGの紹介や就職活動について知る機会が少ないように感じています。「コロナ禍で時間がある分、就職活動をしないと」と心配して毎日ストレスが溜まっています。

しかし、それを言っていて落ち込んでいることはないと考えています。それは私が自分の能力を信じているからです。頑張ればできると思います。

いろんな変化や困りごとをつらつらと書いてきましたが、新型コロナウイルスの終息まで、まだ時間を要するのは事実でしょう。ですが、必ずこの新型コロナウイルスに打ち勝ち、再び平和で豊かな暮らしが送れる日がやってくるはずです。一日でも早くその日が来るように祈りながら、みなさんも日々頑張っていると思います。

- 東洋大学経営学部経営学科に在籍している(4年生)ベトナム人の留学生レ・タン・トゥ・ヴァンです。

コロナウイルスに感染した人々が困難を抱えていて、それでも何をすべきか、誰に連絡すべきかわからない状況の多くが見られます。アプローチする情報源が少ないか、アプローチが非常に遅いので、とても心配していました。感染症拡大のため、確かに誰でも困難に直面しています。留学生としてこれらの困難はさらに困難です。

学校の勉強と日常生活は大きな影響を受けており、生活費だけではなく、税金、国民保険料、学費を絶えず心配し続けています。去年から収入が減少している一方、経済的負担が大幅に増えています。政府からの学生支援緊急給付金に申請を出しましたが、残念ながら、落選になりました。留学生に対して家賃の援助、源泉所得税、国民保険料を減額してほしいです。外国人就職支援政策があると助かります。 作成: 2021年12月8日

## 勉強してきたことや積み重ねた人とのつながりを後代に ～日本についての感想～

報告・ヴー・クアン・ハイ・ビン 日本語学校生

小さい頃、日本について知ったことはほとんど父が語ってくれたものでした。最初は音楽のことでした。小さい寝室の中に両親はベッドで子供たちは床で寝ていました。毎晩父は日本の音楽を聴きながら寝ていました。時間が経って、私たちもだんだん成長



兄弟3人と。報告のヴー・クアン・ハイ・ビンさんは右端

し、私たちが日本に留学できるように両親は一所懸命働きました。私たちが日本の生活を経験することを父は願っていました。今、兄弟3人が日本で安定した生活できるようになりましたが、私は結婚して妻がベトナムにいますので、日本で日本語を勉強してから国に帰る予定です。私が日本での生活を体験できているのは妻の賛成のおかげです。

最初日本に来たのは15年ぐらい前でした。その時の感動は決して忘れられませんでした。成田空港に着いたとき深呼吸しました。日本は新鮮な空気で私を迎えてくれました。その日本の新鮮な空気は副鼻腔炎の私にとって日本からの貴重なプレゼントでした。その時の気候・音・景色は今までも印象に残っています。今、留学生として日本に2年半くらい住んでいますが、その時の感動は今も変わらず、いつも積極な気持ちにしてくれます。

多くの人がいるところを散歩しても、周りの人から迷惑をかれられず、まるで自分だけの世界にいるみたいな感じがして気分がスッキリとし、すごく心が穏やかになります。これは日本人の公共

の場でのマナーと呼ばれるものにも関係していると思います。ベトナムでは真逆です。いつも周りの人に気をつけないといけないです。

日本で「責任」について学びました。ゴミ分別とか、ゴミは家まで持ち帰りとかです。ゴミがない綺麗な街を見るとホッとします。日本人がそこまですることにびっくりしました。

空港から市内への途中の通路には市民の生き方が表れています。簡単に言うと交通はその国の人を反映していると思います。日本人はクラクションをあまり鳴らさないし、混んでいる時も我慢強く並んで待つし、車は歩行者に道を譲るし、それらのことは日本人のマナーがすごく良いことを表しています。アジアの見本にできると言っても過言ではないです。

外国人にとって、景色、気候、文化以外に「人」も日本の価値観を表す要因の一つです。観光客は日本人との接触なしには見ることができないものがあります。そして、日本人との交流がなければ、日本を理解しているとは言えません。私は数回旅行しましたが「日本に住むのはどんな感じですか?」「日本の生活が好きですか?」という質問に答えることができるよう、今回留学生として、日本の「人」や生活についてより深く理解する機会を持つことができました。実際に海外で暮らして、普段はできない貴重な体験をすることができました。

ソーシャルネットワーク上では、日本に住むベトナム人たちは日本人についておかれている立場によってそれぞれ異なる見方を持っています。留学生にとってのそれぞれの立場は、卒業後も日本で暮らし続けるか、母国に帰って仕事に戻るかを決定するということが大きな問題となります。従って、留学を考え調べている人たちから日本の生活や日本人についての質問もたくさんあります。実習生も例外ではなく多くの問題をかかえています。彼らは日本に来てから他の仕事の選択がないため、管理者や同僚との関係で仕事のやる気を失うとか、また続けていく上での迷いなどをもったりしています。

私は日本に2年以上暮らしていますが、まだ日本人の考えを理解することが難しいです。外国人としての私は、日本人と接する際に不便を避けられません。例えば肉の店で買い物する時の経験として次のようなことがありました。店員さんがポイントカードと有料袋に関して質問するなら対応できますが、知らないことを聞かれ理解できず、「大丈夫」とつい返事してしまった私に対して、店員さんの態度が良くない方になりました。もし大変な迷惑をかけてしまったのなら、そのような態度をとられても仕方ありませんが、ただ少し言葉を理解できないというだけで、そのような態度をされることは理解できませんでした。

しかし、いい人にもたくさん出会いました。石川県の金沢市にいた時、自分のスイカカードが地元のバスで使えるかどうかを通りすがりおばあさんに聞いたら、分かりませんと返事しましたがすぐにスマートフォンを出して答えを探してくれて乗り方も教えてくれました。その時はすごく感動しました。

また、ある日、交差点で赤信号のため待っている私は次のような体験をしました。電柱にある小さいボックスにボタンがあって、そのボタンを押さないと信号が青くならないということを知らなかった私はずっとそこで待ちました。かなり長くそこで待っている私の姿を見て、通りすがり高校生がそのボタンを押してくれました。そ

の時、やっとボタンの使い方がわかりました。もしかして、私が外国人だとわかってそのように教えてくれたのかもしれない。

**私**達兄弟にとって、日本に暮らして、勉強して働いているのは貴重な経験です。長兄は金沢市に暮らしています。義兄は十勝に暮らしています、彼らの家族は休日に遠足に行くのが好きです。私と弟は横浜市に暮らしています。両親から学ぶことで日本人と関係を築いています。日本人に溶け込めないと生活が大変にな

ると思いますが、私にとって一番運が良かったことに、父には日本にたくさんの友達がいる、いつも私たちを応援してくれ困ったことがあればいつも手伝ってくれたことです。まもなく母国に帰りますが、日本にいた時間は多くの大切なことや美しい記念を得たひとりで、世の中を面白く感じわたしの人生も豊かになったような気がします。私自身にとって人生とは、金持ちになるとか財産をたくさん持つことではなく、毎日勉強してきたことや積み重ねた人とのつながりを後代に受け継ぐことです。 (記:2021/12/16)

## 寄稿 爆弾被害者支援活動の今、そして今後 ～チャリティーコンサートの意義を問う～

蘇る枯葉剤爆弾の“恨”。今それは日本へ

●今年(2021年)はベトナムの1975年4月30日の南部解放統から48年目となる。1961年8月10日の枯葉剤爆弾投下から61年。

昨年12月年の瀬も押し詰まった28日、NHKテレビは日本の枯葉剤破壊埋蔵問題を取り上げた。

この問題は、数年ごとに繰り返し報道され、蘇ってきている。

●ベトナム戦争時、福岡県大牟田市にあった三井東圧化学では、ダイオキシンを含む除草剤2,4,5-T(2,4,5-トリクロロフェノキシ酢酸、以下、245T)が製造され、ベトナムで2,4-D(2,4-ジクロロフェノキシ酢酸、以下、24D)と混合され、枯葉剤(エージェントオレンジ)としてベトナム戦争で使用された。

●ベトナム戦争で使われたナパーム弾もその93%は日本製だったという。ところが71年4月のベトナム戦争終結に伴い行き場を失った大量の枯葉剤を国有林に破棄埋めた。その箇所は林野庁所管で54か所と言われる。

林野庁分以外に農水省が埋めた農薬もあり、その埋設農薬は、全国24道県、168カ所の総数量約4,400t。当該の自治体でもその詳細を把握していないという。

この他、沖縄では米軍が枯葉剤入りドラム缶を大量に破棄し地中に埋めた。


●戦後、朝鮮戦争、ベトナム戦争と戦争特需で成長を遂げた日本は1980年代「ジャパン・アズ・ナンバーワン」を謳歌した。今、戦争で傷ついた人々の怨念が「埋蔵された枯葉剤」として、日本に跳ね返ってきている。それは亡霊ではない。腐食したドラム缶をすり抜け、固化したセメントの劣化や覆っていたモルタルやビニールの腐食で、蘇ってきている。

ベトナム戦争は「遠い日」の出来事か

●ベトナムの枯葉剤爆弾被害者の“わたしの体の中では戦争が終わっていない”という叫びを受けとめ、チャリティーコンサート、被害者リハビリ施設建設、被害者支援・慰問・調査、被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈など支援活動を続けてきたが、今なお断罪されていない戦争犯罪がそれに加担していた日本国民へ生存クライシスとなってきている。

埋設箇所の42市町村と埋設量

■…林野庁の通達と異なる埋設方法の場所 (土佐清水市の埋設量は不明)



道県	市町村	埋設量	道県	市町村	埋設量
北海道	夕張市	600kg	高知県	四万十町	648kg
	遠軽町	90		いの町	912
	音更町	0.5		大豊町	540
	清水町	0.5		土佐清水市	—
	標茶町	9		佐賀県	吉野ケ里町
	本別町	0.5	熊本県	熊本市	1295
青森県	中泊町	1220		宇土市	2055
	岩手県	久慈市	200	芦北町	180
野田村		440	大分県	別府市	75
磐石町		3940		日之影町	300
岩泉町		1095	宮崎県	西都市	2
宮古市		375		宮崎市	1260
	西和賀町	20	小林市	165	
福島県	会津坂下町	455	小城市	86	
	群馬県	東吾妻町	1080	串間市	20
		昭和村	45	鹿児島県	肝付町
愛知県	設楽町	1095	湧水町		1200
岐阜県	下呂市	47	伊佐市	720	
広島県	庄原市	374	南九州市	445	
	愛媛県	久万高原町	18	屋久島町	3825
	宇和島市	252			
	松野町	72			

「美しい国 日本」どころではない。「利権」という腐臭まみれの国になろうとしている。

●JVPF 会員連絡報 26号(2021年9月)で、以下の報告をしてきた。

2009年3月2日米国最高裁は米化学薬品大手ダウとモンサント2社に対する訴訟で却下された被害者のチャン・ティ・ト・ガーさんは、2013年にフランスのエブリー刑事法院に枯葉剤を製造した米企業26社を提訴。2014年に19社に対する訴訟手続きが開始され、裁判所は受理後6年間を経た2021年1月に正式な裁判を始めた。2021年5月10日エブリー郡の裁判所は訴訟を却下の判断を下した。

●彼女は1942年生まれで、ハノイ総合大学を卒業し、抗米戦争時に解放通信社の戦場特派員となった。

1966年、南部で最も枯葉剤が散布された地域の一つであるクチで暮らし、その後、枯葉剤が常に散布されていた地域であるホーチミン・ルート最南端で取材し戦争のニュースを送っていた。

彼女の3人の子供のうち、一番目の娘は心臓の奇形のため17か月で亡くなり、二番目の娘は血液の病気にかかり、三番目の娘は多くの皮膚病を抱えている。彼女自身も糖尿病にかかり、体の血管のいたるところ、肺と心臓には小さな粒があり、多くの粒がカルシウム化している。

訴訟を準備する段階で、彼女は、ダイオキシン含有量を確定するため、ドイツで血液の検査を行なった。彼女によれば、これは彼女がまさしく枯葉剤の被害者であることを証明する科学的基礎であり、裁判を進

める上での前提条件だった。検査結果を受け取り、自分の体内のダイオキシン濃度を示す数字を見た時、とても嬉しくて泣いたと明かす。

「誰でも自分が体内にオレンジ剤の毒素をもっていると知れば心配になるのに、私は喜びました。なぜならこれから自分は、戦争が終結してから40年経つのにオレンジ剤の苦しみに日々直面しなければならぬ400万人の被害者の正義を求め戦いを進めるための証拠を得られたからからです。裁判はベトナムの国や枯葉剤被害者に対する私の人生で最後のご奉公となるでしょう」と彼女は語った。

●だが………却下された。今、彼女は決意する。

「私は多くの病気にかかっています。これらの病気は枯葉剤を浴びた人の代表的な病気です。緊張したときに発症することが多かったのですが、諦めずに最後までやります。」

(記:鎌田篤則)